報徳@なう
発行人
滝本一男

２０２５年度を振り返って

― 地域の「食のセーフティネット」として

設立から6年目を迎えた２０２５年度も、小田原市・南足柄市・足柄上郡・足柄下郡の2市8町を中心に、食品ロスの削減と生活困窮者への食支援という二つの使命に取り組んでまいりました。

速報値では、企業・農家・個人の皆さまからお預かりした食品が約８０トン弱にのぼり、そのうち約７５トンを各団体・生活困窮家庭へお届けすることができました。直接・間接の支援を合わせると、延べ約６，５００人の方々に食品が届けられた計算になります。物価高騰が続く厳しい状況の中、これほど多くの方々の食卓を支えることができたのは、ひとえに寄贈者・支援者・ボランティアの皆さまのお力添えのおかげです。心より感謝申し上げます。

♬主な活動のご報告♬

①市営住宅での定期食品配布

偶数月に小田原市内６か所の市営住宅を訪問し、単身高齢者などへの食品配布を続けています。加工食品に加え、当法人シェフが腕を振るった手作り惣菜（チキンカツ・鯖の味噌煮・おこわなど）もお届けし、食卓に温かみを添えています。食品を渡すだけでなく、会話を交わし、見守りの機会にもなっており、地域の孤立防止にも一役買っています。

②子ども食堂・福祉活動団体・児童養護施設への定期支援

２市８町を中心とした子ども食堂、学習支援団体、福祉作業所、児童養護施設、高齢者支援団体など、今年度は１０８団体へ定期的に食品をお届けしました。常温食品だけでなく、冷凍設備の整備により冷凍食品（今年度取扱実績：２０トン）の提供も強化され、栄養バランスに配慮した支援が可能となっています。

③高校での「朝カフェ」支援

― 朝食抜きで授業に臨む子どもたちへ

２０２５年１１月、県西地域の公立高校として初の取り組みとして、大井高校で「モーニング・カフェ」がスタートしました。当センターが３年前から続けてきた食品支援と、学校側の「校内で生徒を支えたい」という思いが重なり実現したものです。生徒会が運営を担い、当フードバンクから提供されたパンや食品を、朝食を取れずに登校する生徒たちに無償で提供しています。事前調査では在校生２００人弱のうち約３割が朝食を希望すると回答。気軽に立ち寄り、授業に向けて気持ちを整える場として活用されています。今後は県西地域の他校にも広げていく方針です。

④ひとり親家庭支援団体への月１回の食品提供

シングルマザーをはじめとするひとり親家庭を支援する団体に対し、毎月１回、加工食品＋冷凍食品などをまとめてお届けしています。栄養バランスのとれた食事を安定的に届けることで、子育て家庭の食の不安を和らげることを目指しています。

⑤行政からの緊急食品支援要請への対応

行政からの緊急要請が増加しており、その背景には物価高騰とデジタルデバイドの影響が顕著です。ＩＴスキルの格差が雇用の質に直結する現代において、デジタルに不慣れな方々が良質な就労機会を逃し、困窮に陥るケースが目立っています。困窮の入り口も多様化しており、高齢者・ひとり親・障碍者世帯にとどまらず、働き盛りの世代や若年層への支援要請も見受けられます。私たちは行政と連携しながら、要請を受けてから速やかに食品を届けられる体制を維持しています。地域の「最後のセーフティネット」としての役割を、これからも果たし続けてまいります。

⑥地域包括支援センターと連携した個別緊急支援

小田原市を中心とする地域包括支援センターと連携し、独居高齢者や障がいのある方、生活困窮家庭への個別の緊急食品支援を行っています。支援件数は決して多くはありませんが、個々の支援要請が「食べるものがない」

という、命に直結するような切迫した状況です。連絡を受ければ迅速に食品を届けられる体制を整えており、この活動は当センターの中でも特に重要な役割のひとつと位置づけています。

数の多さでは測れない、しかし確かに誰かの命と暮らしを支えている――そうした支援があることを、私たちは忘れずに活動を続けてまいります。

⑦小学校での SDGs 出前授業 & ゼロカーボン活動への参加

10月15日、小田原市立三の丸小学校にて、4年生全員を対象に SDGs・食品ロスをテーマとした出前授業を行いました。日本国内で年間462万トンにのぼる食品ロスの現状を伝えるとともに、フードバンクの仕組みや「食べ物を大切にする」ことの意味を一緒に考えました。授業後には「給食を残さないように頑張ります」「帰ってお父さん・お母さんに教えます」といった感想が多く寄せられ、次世代への食育・啓発としての手応えを感じています。また、地域のゼロカーボン活動にも積極的に参加し、食品ロス削減の観点から環境への取り組みを続けています。

⑧神奈川県・小田原市・大井町主催の SDGs 活動への参加

神奈川県、小田原市、大井町が主催する SDGs 関連イベントや取り組みにも参加し、食品支援・食品ロス削減の活動をより広く地域に発信しました。2026年11月30日には「第10回 UMECO 祭り」（おだわら市民交流センター）に出展し、加藤小田原市長とも交流。93団体が一堂に会する市民活動の場で、多くの市民の皆さまに当センターの取り組みをご紹介することができました。

⑨Delivering Smiles on Ice

地域のひとり親家庭支援団体の協力で、2月14日、冷凍倉庫から冷凍トラックで運び込んだ新鮮な冷凍食品を、ひとり親家庭の皆さんに直接手渡しする活動です。冷凍食品約750Kgを80世帯強にお渡ししました。受け取った方々からは「こんなにたくさんの冷凍食品をいただけるなんて！」と驚きの声が上がり、会場にはいっぱいのスマイルが溢れました。

編集後記

2021年頃から物価は上がり続け、毎年約3%の上昇が続いています。主食のコメは高止まりし、年金暮らしの高齢者の生活はますます苦しくなっています。そうした中で、私たちフードバンクの役割はさらに必要とされるものになっていると感じます。

来年度も引き続き、「譲って損なく、奪って益なし」の精神のもと、地域の皆さまと手をつなぎながら活動を続けてまいります。変わらぬご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。









【賛助会員募集のご案内】

私たちは、地域のひとり親世帯や困窮世帯へ食品を届ける活動を行っています。近年、行政からの緊急支援要請は増加の一途をたどっており、官民一体となったセーフティネットの構築が急務となっています。

私どもの活動趣旨にご賛同いただき、賛助会員として地域福祉を支えるパートナーとなっていただけないでしょうか。

【お問い合わせ先】

電話：
070-1432-9559
E-mail：
inquiry@foodbank-houtoku.jp